

明神山 常夜燈の旧所在地への移設調査

呉羽山観光協会

呉羽山観光協会におきましては、呉羽山丘陵城山の明神山・五時谷近辺の観光開発を重点課題として進めてまいりました。旧富山観光ホテル前からの石造物の旧地近くへの移設、フットパスコースの利用促進、周知活動などを実施してまいりました。

さて、呉羽山観光協会の創立50周年記念事業の一環として、七面堂裏に設置されている常夜燈を旧所在地への移設について活動を準備してまいりました。

先般、市友会において、森富山市長に、移設要望をお話したところ快諾を頂きました。2月6日（木）富山市梅沢町 立像寺を訪問し、常夜燈移設活動への了解を得ました。

それに伴い、常夜燈の現在地付近と、移設先の特定の調査を3月12日、郷土史家 武内氏の支援を頂き実施しました。

（富山市茶屋町常夜燈及び付近の石造物）



七面堂裏側の高台には、常夜燈が移設されている。明神山の尾根にあったものが、旧国道沿いに移設され、交通の障害と平戊元ころ、現在の地に移設されたもの。

「天保九 戊年十月吉日」「孝存代」と刻まれている。明神山の山上に在ったときは富山湾沖からも灯火が望見され、船人のよき目印であったという。

（北陸街道を歩くより）

（※天保 戊年＝1838年天保9年）



(常夜燈近くの石造物) 跨道橋工事の障害であれば、同時に移設が望まれる



大型法華塔 寛政6年(1794年) 七面堂への奉納
墓石は、立像寺八世日等上人。忌日 天保3年(1686年)
五時谷長久院の初代住職

(常夜燈の旧所在地と想定される場所)



旧設置場所と想定される凸地



当地点からの日本海の眺望



人物と比較サイズ



稲荷社右横のフットパスの尾根上に

平面図

位置図 (position)



参照 : Google ビュー

設置例 基壇の上に構築されていたと考えられるが、現在2段のみとなっています。

(岩瀬琴平神社内常夜燈)

『常夜燈は、この社殿が建つ前に佐渡伝次郎によって建てられた。建立年は、元治2年（慶応元年、1865）6月と刻まれ、高さ約6mで、当時は燈台の役目も果たしていたとされている。』（琴平神社内観光案内版）



山市舟橋常夜燈)



愛知県碧南市神有町



出石おりゅう灯籠

